

第11卷

NHK
取材班
編

日 本 史



KTC中央出版

取材班編

堂々日本史

第11卷



K T C
中央出版

〈出版関係〉

参考図書

日本大百科全書（小学館）

日本の歴史（小学館）

原色図解大事典（小学館）

国史大辞典（吉川弘文館）

角川日本地名大辞典（角川書店）

日本歴史地名体系（平凡社）

全国寺院名鑑（寺院名鑑刊行会）

日本の名城・古城事典（TBSブリタニカ）

日本人名大事典（平凡社）

ほか。

堂々日本史 11

1998年1月16日 初版第1刷発行

編 者 N H K取材班

発行人 前田哲次

発行所 K T C中央出版

〒460-0008

名古屋市中区栄1丁目22-16 ミナミビル

TEL.052-203-0555

振替 00850-6-33318

編 集 （有）オフィス眞

〒102-0084

東京都千代田区二番町1 番町ハイム 215

TEL.03-5275-2128

印 刷 図書印刷株式会社

©NHK 1998 ISBN4-87758-058-1 C0321

Printed in Japan *落丁・乱丁はお取り替えいたします。

毛利元就 覇権への軍資金戦争

大躍進を支えた経済戦略



毛利元就画像

小豪族から10か国もの大大名になった元就。それを可能にしたたかな経済戦略とは、いかなるものであったのか。

(毛利博物館所蔵)



「日本国王之印」

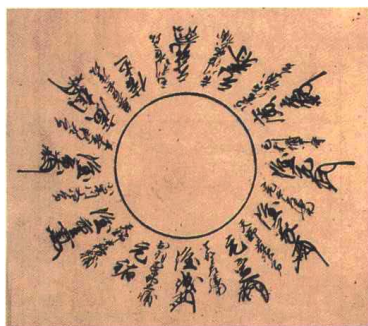
明との正式の交易には、明が与えたこの印鑑が必要であった。元就は、大内氏滅亡に際してこの印鑑を手に入れた。

(毛利博物館所蔵)



漆塗雲龍鎗金印箱

毛利家に伝わる宝物のひとつで、明で作られた漆器の逸品。(毛利博物館所蔵)



傘連判状

寄せ書きを思わせる、傘状に署名された連判状。形の上では各人が対等な立場であることを表すのだが……。

(毛利博物館所蔵)

石見銀山採鉱の図 (銀山絵巻)

当時、世界でも有数の銀山であった石見銀山。この銀山を手中におさめた元就は、産出する銀で、鉄砲の火薬原料である硝石を一手に輸入した。

(国立公文書館内閣文庫所蔵)





厳島合戦図

厳島、それは瀬戸内の流通拠点であった。
1555年、元就はこの地で陶晴賢の大軍を打ち破り、以後の大躍進のひとつのきっかけとした。(宮島歴史民俗資料館所蔵)



尼子晴久画像

石見銀山を支配下におき、山陰に威を振るった大名、晴久。しかし、銀山を守る城将が元就の策略によって寝返り、銀山は元就の手に落ちた。(山口県立山口博物館所蔵)



毛利元就木像

毛利家に代々宝物として伝えられてきた元就像。(毛利博物館所蔵)

月山富田城絵図

難攻不落を誇った尼子氏の居城。力攻めを断念した元就は、4年にわたって包囲し、兵糧攻めでこれを落とした。(城安寺所蔵)



大内義隆画像

山口を本拠に、「日本国王之印」や「勘合符」によって明、朝鮮と交易して莫大な富を得たが、やがて家臣の陶晴賢に攻められ、自ら命を絶った。(大寧寺所蔵)



徳川家康、

大ピンチの処世術

検証・三方ヶ原の大敗北



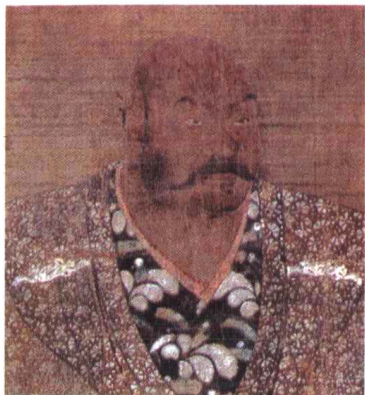
「しかみ像」(『徳川家康三方ヶ原戦役画像』)

三方ヶ原の合戦での大敗北を忘れないために描かせたとも伝える家康像。その表情に、強烈な恐れをよみとることができる。家康はなぜ、一見無謀なこの戦いに挑んだのか。その狙いは……。 (徳川美術館所蔵)



徳川家康画像

天下人となった家康。その成功の原点は三方ヶ原における決断にあった。(日光東照宮宝物館所蔵)



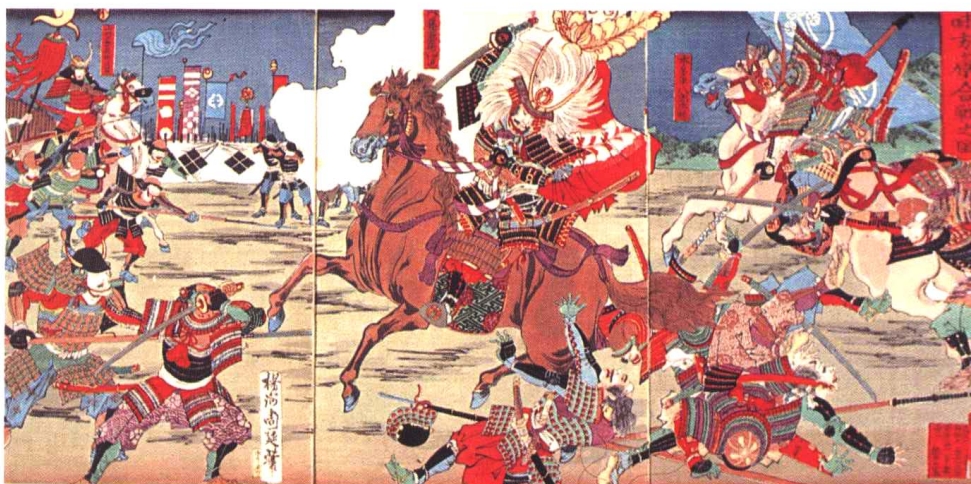
武田信玄画像

戦国の雄、信玄。徳川方から寝返った
武將を飲み込んで、ひたひたと浜松城
に迫った。(高野山霊宝館所蔵)



浜松城

若き日の家康の居城。この北西に、三方ヶ原の台
地が広がる。(斎藤政秋・撮影)



武田軍に包囲される家康（三方ヶ原合戦之図）

わずか2時間のうちに人生最大の敗北を喫した家康は、逃げる途中、恐怖の
あまり馬上で大便をもらしたともいう。

(浜松市博物館所蔵)



酒井の太鼓（三方ヶ原合戦之図）

浜松城に逃げ帰った家康が、家臣酒井忠次に命じて太鼓を打ち鳴らさせたと伝える。逃げ戻る兵を励まし、城内にまだ多くの兵がいると武田軍に思わせるためであった。（浜松市博物館所蔵）



三方ヶ原合戦跡碑

（斎藤政秋・撮影）

徳川家康銅像

（斎藤政秋・撮影）



織田信長

最後の晚餐

本能寺に消えた大戦略



織田信長画像

本能寺の変の前日、信長は、天下の名品である茶道具を披露する大茶会を開いた。この茶会に、信長はある大戦略をかけていたのだ。

(長興寺所蔵)



本能寺客殿の主室

(コンピュータ・グラフィックス推定再現 中村利則監修)



勢高肩衝茶入れ

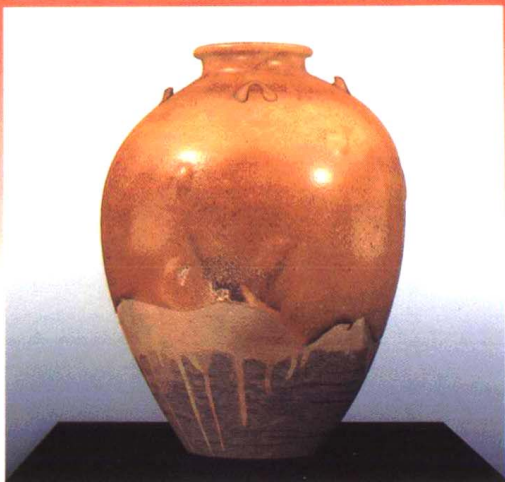
信長が茶会に持ち込んだ名品のうち、焼失を免れたふたつのうちのひとつ。(頼川美術館所蔵)



珠光の小茄子茶入

わび茶の創始者村田珠光が愛した茶入れ。これも本能寺の変で焼失した。

(コンピュータ・グラフィックス推定再現 竹内順一監修)



三日月の茶壺

足利義政が秘蔵し、信長が所持する茶道具中最大の名物として名高かった。本能寺の変で焼失。

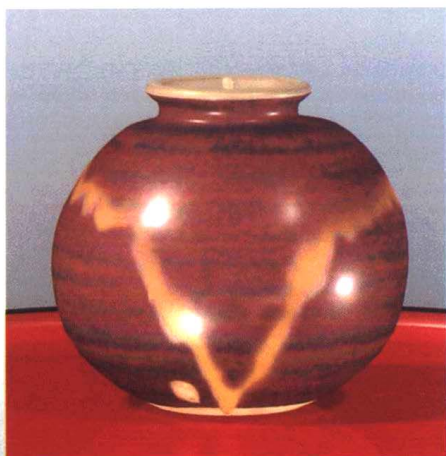
(コンピュータ・グラフィックス推定再現 竹内順一監修)



松本茶碗

この茶碗も本能寺の変で焼失した。信長所有の最高峰の茶碗であった。

(コンピュータ・グラフィックス推定再現 竹内順一監修)



付藻茄子茶入れ

焼失を免れたふたつのうちのひとつ。

(静嘉堂文庫美術館所蔵)

本能寺（洛中洛外図屏風）

本能寺の変当時の寺の全容は不明だが、東西約120メートルの敷地から推定して、戦国時代にあつては大寺院であつた。

（米沢市所蔵）



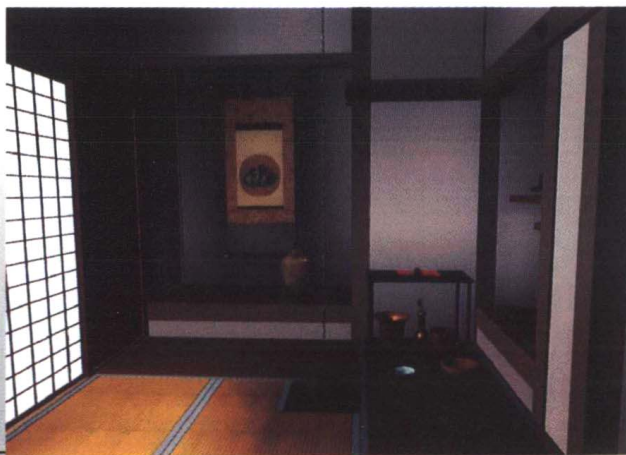
嶋井宗室画像

国際貿易港であつた博多一の豪商で、茶人でもあつた宗室。信長は、本能寺の茶会の主賓として宗室を招いた。そこには、信長の鋭い戦略があつた。

（嶋井家蔵
福岡市博物館寄託）

本能寺客殿の茶室

（コンピュータ・グラフィックス 推定再現
中村利則監修）



津田宗及茶会記（茶湯日記）

豪商であり茶人でもあつた宗及は、100点の名物について、大きさ、色、模様などを書き記している。（個人所蔵）

豪華！

戦国の南蛮ファッション

天下人の風俗戦略



伝秀吉着用南蛮衣装

茶色のビロード地全面に刺繍を施した豪華なマント。羽織って着るのが通常のマントだが、これは腕を通す形に変えられている。

(名古屋市秀吉清正記念館所蔵)



豊臣秀吉画像

自ら南蛮服を愛用しただけでなく、大名や家臣にまで南蛮服の着用を命じたという秀吉。なぜ、秀吉は、これほどまでに南蛮ファッションにこだわったのか。

(逸翁美術館所蔵)



役者の胸にロザリオ（歌舞伎図巻）

徳川家康の頃の京都の情景を描いた絵に、十字架のついたロザリオを胸にさげた役者が描かれている。観客の中に南蛮人の姿も見られる。（徳川美術館所蔵）

南蛮商人を迎える宣教師 （南蛮屏風）

当時の長崎貿易は、宣教師が仲介する形で行なわれていた。秀吉は、突然、宣教師の追放を命じるのだが……。

（神戸市立博物館所蔵）





長崎港のポルトガル船（南蛮屏風）

日本最大の貿易港であった長崎。多くのポルトガル商人が行き交い、その賑わいは遠くヨーロッパにも知られていた。

（神戸市立博物館所蔵）



徳川家康所用の眼鏡

（久能山東照宮所蔵）



徳川家康所用の南蛮時計

（久能山東照宮所蔵）

伊達政宗

生き残りのグルメ戦略

馬上少年過
世平白髪多
殘軀天所赦
不樂是如何



伊達政宗画像

ふくよかな面だちに描かれた政宗像。元来粗食で、勇猛果敢で知られた政宗の後半生は、グルメ三昧の日々であったという。はたして政宗の真意はどこにあったのか。
(仙台市博物館所蔵)